

令和5年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773500604		
法人名	社会福祉法人 長生会		
事業所名	グループホーム 美野の里 (1ユニット)		
サービス種類	グループホーム 美野の里		
所在地	大阪府南河内郡太子町山田2558番地		
自己評価作成日	令和6年3月10日	評価結果市町村受理日	令和6年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①寄り添う心を大切に、その人らしく過ごして頂けるよう支援します。②地域の社会資源を活かし、地域と連携を図ることにより、充実した生活を過ごして頂けるよう努めます。③職員においてはその方に適した介護が提供できるよう、勉強会や研修会など積極的に参加し、スキルアップを図ります。新型コロナウイルス蔓延により、外出制限がありました。施設周辺の散歩を通じて、季節を感じて頂くなど、出来る範囲で少しでもストレスを軽減できるよう取り組んでいます。ご家族との面会も感染状況に応じて時間設定を行い、安全に面会して頂けるよう取り組んでいます。また、タブレットを活用したオンライン面会も常時実施しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームをはじめ多くの福祉事業所を運営する社会福祉法人が設立したグループホームです。大阪平野を見渡せる場所に位置し、季節の移ろいを感じることができます。リビングと食堂が別々の広いホーム内には、いたるところに職員のアイデアあふれる飾りつけや掲示物を見ることができ、ほのほとした温かい雰囲気を作り出しています。「美野の里はご利用者のために存在します」の法人理念の下、「笑顔・心・交流」のグループホーム理念を掲げ、職員は理念を共有し、利用者にとって居心地のよい場所「第二の家庭」となることを目標にしています。また、利用者一人ひとりの長い人生に思いを馳せることを大事にし、入居前の馴染みの関係が途切れないよう支援にあたっています。近所や広い敷地内を散歩するのは日常の光景で、散歩の途中で出会う地域の方々との顔なじみの関係もできています。職員の特技や自主性を発揮できる職場環境、また管理者や役職者が常に現場をサポートする安心感、チームワーク良さなどは職員の士気を高め、職員の定着に繋がっています。「日本一、心温まるグループホームを目指しています」と管理者が言うように、明るく、穏やかで、温かい雰囲気のグループホームです。

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JivovsoCd=2773500604-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)
訪問調査日	令和6年3月27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に加えて、グループホームとしての理念を掲げ、ご利用者にとって、なくてはならない場所にするを旨とすると共に、地域との交流促進に努めている。	「美野の里はご利用者のために存在します」の法人理念の下、「笑顔・心・交流」のグループホーム理念を掲げ、職員は理念を共有し、利用者にとって居心地のよい場所「第二の家庭」となることを目標にしています。毎月目標をたて、理念の実践に繋げています。管理者は、行事などの時に見れる利用者の楽しい表情から、理念の確かな実践を実感しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の観点から、現在の実施は不十分となっているが、出来る範囲で近隣の神社に散歩にでかけたり、イベントなど外出する機会を設けている。	コロナ禍前は、地域との交流は積極的に行っていました。管理者や職員は、中止になっている、小・中学校の社会体験学習、大学の文化祭への参加、地域の寄り合いや出店への外出等、以前出来ていた多彩な活動が復活することを願っています。日常になっている神社への外出の際は地域の方との挨拶を通して交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により地域との交流機会は減少傾向となったが、役場など日頃の交流で、地域の認知症ケアへの取り組みを話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、運営推進会議は書面開催にて実施している。	役場職員、介護相談員、地域包括支援センター職員、家族等の参加で委員会を開催していましたが、コロナ禍からは書面開催となっています。ホームの運営状況の報告と、利用者の暮らしがわかる写真を送っています。	書面での会議が続いていますが、今後は送付した委員から意見を聞かせてもらう工夫をされたらいかがでしょうか。また、会議は報告中心になりがちですが、ホームが抱えている問題も開示し、より開かれた運営推進会議になることが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保険者である太子町の担当職員とはコミュニケーションを密にして頻繁に情報交換を行っている	役場の担当課職員とはいつでも相談できる関係にあります。現在は中止の状況ですが、介護相談員も受け入れています。地域包括支援センターとは適時連携や情報交換を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の居室の扉には、鍵をかけていない。施設玄関の出入口は、グループホーム入居者の特徴等を配慮して、電子キーを採用している。ベランダへは自由に出ていただける。	身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催、法人全体で虐待や身体拘束に関する研修も実施しています。玄関は施錠していますが、外に出たい気持ちを察した時は職員も一緒に出て、閉塞感を感じさせないようにしています。ベランダには自由に出ることができます。管理者や役職者は、職員の話をよく聴くことを心がけ、ストレスへの配慮を行っています。また、職員の得意分野を活かすことでやりがいを感じる環境づくりに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内の会議で人権の尊重や虐待防止をテーマとして取り上げ、職員に学ぶ機会を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として社会貢献事業に参加しており、会議等で報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類の文字サイズを大きくしたり、その場で契約を迫ったりせず、十分に時間を作り、質問等を受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた際は出来る限り最近の様子など話をするようにしている。また、介護相談員よりご利用者の意見要望を伝えてもらっている。	現在面会は、予約制で回数や時間の制限つきになっていますが、面会には多くの方が訪れています。面会時には職員から利用者の近況を報告しています。また、ケース担当職員から写真付きの近況報告を定期的に家族に送付しています。	今後、利用者の暮らしがよりわかるように、ホーム便りの作成等検討されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議では意見を言いやすい雰囲気作りに心がけ、現場主導で行えるよう意識している	常勤会議で話し合ったことをグループホーム会議に投げかけ、ホームの運営やサービス向上について話し合っています。会議の中で利用者一人ひとりのカンファレンスも行っています。管理者や役職者は職員が日常的に何でも話せる雰囲気作りを大切にしています。職員の主体性が尊重される風土は、離職者が少ない職場環境を生み出しています。管理者は「うちの自慢は、『信頼できる職員』」と誇りにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務担当チーム制を取り入れ、職員それぞれに役割分担を行うとともに、権限の委譲も行い、やりがいのある職場作りを行っている。また、職員の配置を増やしより負担なく働けるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ベテラン職員がリーダーとなつての職場内研修を定期的実施し、職員意識啓発に努めている。(自らが、向上心を持って自発的に学習に取り組む事により成果が得られることを踏まえ、研修では、向上心をはぐくむ事を大事にしたいと考える)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修等、研修に参加した際には積極的に他の事業所職員と交流し、ネットワークづくりを意識している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにおいては、これからの生活を構築するために、ご本人と取り巻く環境の過去と現在を伺い本人理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの段階で、出来るだけご家族の不安が取り除くことが出来るように時間をかけ説明している。また、出来ること出来ないことについても、要望をまずは受け止めることを意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	マッチングに関してはグループホーム職員だけでなく、ケアマネージャーや他のサービス事業所よりの情報を収集し、意見交換を活発に行い、カンファレンスも行う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしく過ごして頂けるよう、過去の生い立ちや経緯、病歴等を把握し、意識して取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も支援者としてご本人に向きあい、共にQOLの向上をめざす。ケアの方法や行こうなど変更については常に意見を確認している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面接は1度ではなく、事業所に来ていただくこと、家庭に赴き、生活の様子を伺うことは最低限行っている。	職員は、利用者一人ひとりの長い人生に思いを馳せることを大事にし、入居前の馴染みの関係が途切れることのないよう支援にあたっています。入居時のアセスメントで生い立ちや仕事、趣味等を把握し、日常の支援に活かしています。入居前から俳句を作っていたことから「広報たいし(太子町発行)」への投稿を職員が勧めたことで、生きがいのひとつになった利用者がいます	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の「人間関係」構築を大切に考え、職員も「環境」として意識し関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は疎遠になりがちだが、相談等に応じるなど、何かあれば応対している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の一部導入により、ご利用者の過去から現在・未来を把握し、ご利用者本位に努めている。	日頃の何気ない会話や様子から、希望や意向を把握するよう心掛けています。管理者は「利用者の顔を見て、思いを知る」ことの大切さを、また、「タイムカードを打って帰るとき、利用者全員の顔を思い浮かべてほしい」と職員に伝えています。離職者が少なく、利用者との馴染みの関係ができていることも、質の高い個別支援に繋がっています。	日常の関わりの中での気づきや発見が職員間で共有できるように、さらなる記録の充実が期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現在を知りこれからの生活を検討するには過去は必ず知る必要があり、重点的にヒヤリングを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在を知りこれからの生活を検討するには過去は必ず知る必要があり、重点的にヒヤリングを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の主体性を重視したアセスメントを行い、家族や、必要な関係者と話し合い介護計画を作成している。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。毎月の会議で利用者一人ひとりのモニタリングを兼ねたカンファレンスを行い、介護計画に反映させています。計画の見直しは6か月毎に行いますが、状態に変化があれば随時更新しています。計画作成担当者は「短期目標を、手の届くところの目標にする」、「利用者一人ひとりに合った計画を立てる」の2点を特に心がけ、介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者には、各職員がケース担当をし、重点的にその人の状態の把握を行い、毎月の会議で必要事項は報告し、全員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に入居者本位を大切にし、そのニーズに柔軟に対応することを心掛け、「今までしていなかった」ではなく「これからできる方法はないか」という視点での対応を目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に出かけること、地域の方を迎え入れること、両面で地域とのつながりを意識している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の受診医療機関については、本人及び家族の希望を最大限重視している。尚、施設内で入居者に健康上の異常が見られた際は、嘱託医の受診を受けている。	併設している特養の嘱託医の訪問診療があります。特養の看護師と連携を密にして、体調に変化があるときは連絡相談を行い、嘱託医の診療を受けています。在宅時のかかりつけ医を継続した定期受診も可能です。通院時、基本的には家族の付き添いが必要です。職員が付き添うこともあります。利用者は半年に1回定期検診を受けてます。歯科医の定期訪問もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりが不十分な看護師へ、状態の変化や気になる状況をご利用者の代わりに伝え、適切な医療サービスが受けられるように心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携はもちろん、各院の地域医療連携室の担当者と密に連絡を取り、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には看取り及び急変時の対応について意向調査を行い、職員で共有している。また、重度化してきているご利用者については、医師・看護師に情報提供し、ご家族を含んだ「チームとして支える体制」に取り組んでいる。	ホームでの看取りは行っていませんが、食事量の低下・リフト浴でも座位が保てないなどの状態が多くなり、医療支援が中心になってきた時には、医師・家族・職員で、最適な支援について話し合っています。利用者と家族の思いに寄り添い安心して過ごせる環境作りを目指し取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で、リスクマネジメントや、CPR訓練について取り入れており、定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時を想定した避難訓練は、消防署の指導の元に、定期的実施している。又、地域の消防団との連携にも努めている。災害時の食料については、業者が運んでくる契約になっているだけでなく法人として備蓄している。	敷地内に特養・ケアハウス・グループホームがあり、災害対策は3施設合同で考えています。施設間は廊下で繋がっており、特養施設内で水・アルファ米など3施設3日分を備蓄、停電にそなえ懐中電灯など日用品も備えています。避難訓練も定期的に行い、BCP(事業継続計画)を作成、災害時の職員の出勤方法についても検討しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長い人生を社会や家族の為に尽くしてこられた方々であるとの認識を持ち、人格の尊重については最重視して個人情報の軽はずみな発言などしないよう徹底している。個人情報について関係者以外には漏れる事の無いよう徹底を図っている。	勉強会を開き、排便の報告も声の大きさや伝えかたに注意をしています。居室のトイレ入り口はドアを開けていても廊下から中が見えない所に設置されています。主任は「自分がされて嫌と思うことは相手にもしない」、「意外な行動の理由を何で?と考える」など利用者(相手)の気持ちに常に意識を向けるよう伝えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者のペースに合わせて生活リズムを作り、寄り添うことで本人の思いをくみ取れるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	美野の里はご利用者の為に存在しますの経営理念の下、ご利用者主体の生活となる様心掛け、その日その日の要望に出来るだけ寄り添っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は整髪の介助を行っている。衣類に関してはご家族に連絡し、面会時などで持参していただくよう働きかけている。特に禁止事項は設けず、希望に沿う形を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け等は、従事できる方は、本人の自発的参加をもとに、職員と共同で行っている。また料理作りやおやつ作りの機会を作り、生きがい・やりがいのある場を提供している。	日常の食事は特養で作ったものを提供しています。月1回、ユニットで食べたいものを考え、昼食作りやおやつ作りをしています。畑で収穫した野菜を使ったおやつ作りも楽しみのひとつです。水分は本人の好む物を提供し、人気のある100%りんご果汁のジュースは水分摂取量をあげています。ユニットでの食事作りの時には包丁を使う人もいました。利用者は、盛り付けや片付け等できることを手伝っています。ホームの玄関前ではバーベキューをしたり、テーブルをセットしてお茶会もします。外出先で好きな物を選んで食事できる企画が再開できれば食べる楽しみが増えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設の管理栄養士と連携して、それぞれの入居者の体重等も配慮しながら適正な栄養摂取や水分補給等に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するため、チェック表を作成し、トイレでの排泄を目指している。	入居後、配慮した声掛けを行うことで排泄が改善し、自立できた事例があります。トイレでの排泄を大切なことと捉え、チェック表をみながらこまめに誘導しています。排泄の研修を行い、使用しているパットの機能性を知り、排泄時間を見直す機会になりました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限りトイレに座り、排便を促し、ヨーグルトやプルーン、オリゴ糖の摂取や水分補給や運動とともに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の入浴は、週2回を基本としてローテーションを組んで実施しているが、該当日以外の日での入浴を強く希望された場合は、その希望に応じている。	浴槽をまたぐことが困難な利用者も、リフトを利用し湯船に入り、座位を保ったまま体を温めることができます。希望があれば同性介助にも応じ、一人ひとりにあった言葉掛けで入浴を促しています。季節の良い時期には窓を開けて景色を見ながら露天風呂感覚を味わうこともできます。利用者が使いやすいように小さなタオルを入浴用に準備しています。昨年のクリスマスには個人の好きな香りの入浴剤をプレゼントしました。自分に合った石けんやシャンプーを使い、週2回お風呂に入っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠状況やその時の様子で休息を促したり、温度・布団等にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態の変化についてはDrに都度報告し、指示を仰いでいる。薬についてはリストにして、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各ご利用者の要望を引き出せるように努力しているが、なかなか困難であり、職員よりいくつかの提案をし選択していただける工夫はしている。また、日常の洗い物や洗濯物たたみ等は習慣化し、役割感を持たれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気にもよるが、散歩やアクティビティーの一環で、屋上へ出たりドライブへ出たりしている。また、散歩の希望にも、できるだけタイムリーにお答えできるよう、心掛けている。	今年は梅を見に行きました。桜を見るツアーも計画しています。おやつ後のゆったりした午後の時間には、畑や花壇の水やりをして野菜や花の成長を楽しみにしています。近くにある神社への散歩など外にできる機会を増やしています。自由に出ることができるペランダでも、景色を見ながらの外気浴や散歩を楽しめます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルに繋がることもあり、普段お金を所持されていることは無いが、ご利用者の能力に応じ、ご家族理解の下、お小遣い程度を所持していただいたり、買い物に行った際の支払いは職員よりお金をお渡しし、支払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友達などと交流機会を確保できるよう、電話を代わったり、手紙を代わりに投函したりなどの支援により関係性を大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備はその時、その方に合わせて行っており、特に空調は、湿温計も参考にしながら効き過ぎないように配慮している。	食堂の窓からは山や緑がすぐ近くに見え、大阪の町並みを一望、夜景も楽しむことができます。リビングとキッチンが別々に配置され、佳景のベランダを使って建物を一周できるようになっています。1階リビングにはピアノ、2階リビングにはキーボードがあり職員の特技や趣味が活かされ、レクリエーションに華を添えています。壁の掲示物は職員のアイデアで季節感にあふれ、利用者の作品も飾って、作る励みにつながっています。利用者には好みの場所やソファがあり、それぞれの場所で寛ぐことができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	余暇時間などではホール(談話室)を活用し、他のご利用者や職員とのコミュニケーションがとれる場を提供している。フロアの中でも座れる場所を多く作り、食堂や居室でも独りになれるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や衣類などは持ち込んでいただき、住み慣れた環境が継続できるよう支援・工夫している。	各居室には畳のスペースがあり訪れた家族とゆっくりとくつろぐことができます。ちいさめの机と椅子をおき、本や筆記用具を揃え折々の俳句を作り楽しむ利用者もいます。今までの生活環境を保ち好きなことが続けられるようにと支援しています。居室入り口には部屋がわかりやすいように大きく名前を書くなど工夫がされています。ベッド・大きな収納庫・エアコン・カーテンは備え付けられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り制限は設けず、ご自身で考え行動できる支援をしている。ただし、困っておられる時にはすぐに近くに寄れるよう心掛けている。		